

星槎国際高校湘南

全日本高等学校

女子サッカー選手権大会

セイスポ

号外



星槎スポーツ新聞

★ 2019年1月27日(日) ★

星槎グループ セイスポ編集部発行
神奈川県 中郡大磯町国府本郷 1805-2

／ 創部5年目で夢の頂点へ ／

日本

第27回全日本高等学校女子サッカー選手権大会

CHAMPIONS

13, Jan

応援団と喜び共有

2019年1月13日(日)

決勝

神戸ユニバー記念競技場
(観客数 5,428人)

星槎国際高校湘南 1-0 常盤木学園高校

(神奈川)

(宮城)

星槎得点者 黒柳智世 (23分)

胸上げされる
渋谷巴菜主将星槎国際高校湘南女子サッカー部 初代主将
金野可奈の眼

星槎国際湘南女子サッカー部は、創部初期に掲げた「日本一」に辿り着きました。ご支援、ご声援下さった皆さまに感謝申し上げます。

私たち1期生は、全てが挑戦でした。たった1

今の3年生で5期生となりますが、当たり前前に全国出場してきたチームだったから、各選手が全てを懸けて戦うことを知らない世代でした。しかし、全国大会の試合を通して、それぞれの選手が役割を遂行する責任を学び、その責任が彼女たちをより強くしました。

決勝の舞台に立つまでに、彼女たちにはたくさんの葛藤やプレッシャーがあったと思います。その中でもいつも明るさを忘れ

ず、笑顔で前向きにやりきった彼女たちの日本一は正に百花繚乱でした。試合終了のホイッスルが鳴ったとき、嬉しさが込み上げてきました。立場は変わっても、全日本高等学校女子サッカー選手権に対する思いはまだまだ残っていたのだと気付きました。

5年かかって夢が叶いました。今大会の「日本一」は、あのユニフォームに袖を通した全員の夢を叶えました。多くの方々の期待に応えました。

代を繋いでくれた卒業生に感謝しています。愛し続けてくださる皆さまには感謝しかありません。代を継ぐ選手たちにはこれから「日本一」を求め、代を重ねても愛されるチームであって欲しいと思います。

平成31年1月13日に第27回全日本高等学校女子サッカー選手権大会の決勝戦が神戸ユニバー記念競技場で行われた。対戦相手は昨夏の全国高校総体優勝校で、2冠を目指し試合に臨んでいた宮城県常盤木学園高等学校。大会最多の5度の優勝を誇る学校でもあった。

迎えた決勝戦。全国から500人を超える星槎の仲間が現地に駆けつけ、一体となった応援が物凄い後押しとなり、試合をする事ができた。

試合立ち上がりは星槎が常盤木学園に猛攻を仕掛けた。しかし得点は奪えず、逆に反撃に遭いチー

ム全員で身体を張ってゴールを守った。そのようない一進一退の目の離せない攻防が続く、少し星槎のリズムになってきた前半23分。常盤木学園のゴールから30m離れた場所からフリーキックのチャンスを得た。キッカーは2年生 黒柳智世。何の迷いもなく振り抜いた右足から放たれたボールは吸い込まれるように常盤木学園のゴールに入り、星槎が先制点を奪った。

その後も浮かれることなく常盤木学園に攻撃をし、チャンスを作っていたが、なかなか得点までは結びつかない。常盤木学園もなんとか得点を奪い

返そうとさらに必死に攻撃を行なってきた。しかし、チーム全体で相手の攻撃に対応し、1点リードで前半を終えた。

後半は、体力の消耗が懸念されたが相手も疲労が隠せていなかった。ただ、攻められる時間帯はだいぶ多くなった。しかし、DFの渋谷巴菜、黒柳智世、國部碧、阿久井泉とGK小野葵が中心となりながらチーム全体で相手の攻撃を防ぎ相手にシュートをうつたせない。実際

常盤木学園のシュート数は前半5本、後半4本と、これまでの1試合平均14本を下回った。また、リードしていたが守りに徹することなくチャンスがあればカウンターで相手へ攻撃を行った。そして90分間相手の猛攻を凌ぎきり、1-0で勝利し、参加433チームの頂点に立った。

加藤もも
シュートを放つ決勝点となった
フリーキック
黒柳智世

初

戦を突破して、浮かれることなく目標を「初戦突破」から「一戦突破」に変更した。目標設定変更の際は、1回戦が終わる宿舎に帰って選手だけのミーティングを行い、テレビ電話を駆使しながら、今大会は応援の部員を含め全員で目標設定をし直した。様々な目標の意見が出た。その意見をまとめ決まったのが、「一戦突破」であった。「一戦突破」の前の試合を突破して決勝まで進出し優勝することが目標となった。



指示を出すキャプテン
遠谷巴梨

の、ミスも多くリズムが掴めず相手ゴールを割ることができない。相手のゴール前になると相手がい陣のゴール前を固めていることで精度をかき、シュートを打てない苦しい時間が続いた。前半の途中にメンバーを代えリズムを掴み直しにかかったが、得点は奪えず、0-0で前半が終了した。前半は歯がゆい試合展開だったため、後半はど

うしても得点が欲しかった。後半開始から星槎としてやるべきことを一つ一つ丁寧に言い、開始10分で得点を奪うことができた。そこから立て続けにゴール前の攻防を制して2点を奪った。後半は終始、星槎ペースの試合展開になり終了間際にも追加点を奪った。

試合は終了し、4-0で勝利を納めた。創部初の2回戦突破が決まった。

1回戦

2019年1月3日(木) 三木総合防災公園第2陸上競技場

星槎国際高校湘南 4-1 大商学園高校 (神奈川) (大阪)

星槎得点者

黒柳智世(8分)、黒柳智世(57分)、加藤もも(66分)、松尾美月(76分)



さあ、1回戦突破だ



ボールを奪え
阿久井泉(も)

5年連続で出場している全日本高等学校女子サッカー選手権大会が今年度も神戸で開催された。初出場で1回戦を突破して以降、1回戦敗退が3年連続で続いていた。今年度はそれを打破するべく、チームビルディングを行

い、チームの士気を高め、年末には近隣の天然芝グラウンドで練習を行った。また、出発直前の練習ではテクニカルアドバイザである、元西ドイツ代表のリトバルスキーさんが指導してくださった。その中で、初戦突破を目標に掲げて今大会に挑ん

だ。初戦の相手は前回大会で敗れている、大阪府の大商学園高校。関西大会を1位で通過している強豪である。試合が始まると気持ちのこもった星槎イレブンが大商学園に猛攻をしかける。星槎のパスワークでリズムを掴むとコーナーキックから先制した。



最強の応援団

しかし、一瞬の隙をつかれペナルティーエリアに侵入されゴール左隅にシュートを決められ、振り出しに戻る。勢いづいた大商学園が猛攻を仕掛けてきたが、粘り強く対応し追加点を許さず前半が終る。

もう一度、自分たちの掲げた目標を確認し後半に臨んだ。試合開始から星槎の猛攻は止まらない。後半も星槎のパスワークからリズムを掴み相手に攻め込んだ。相手に攻め

戦いを終えて

FW 加藤もも

初戦からたくさんの応援がありとうとういきました。チーム目標として『初戦突破』を掲げ試合に挑みました。次のことを考え、目の前の一戦に全てをかけようというチーム全員がまとまっていたと思います。一対一で負けないことや、誰かの為に、個人がやるべきことを果たせていたのかなと思います。たくさんの応援・支援が力になり、勝利を掴み取ることができました。

戦いを終えて

GK 諸星花恋

たくさんの応援ありがとうございました。かつて突破したことない2回戦を突破するべく挑みました。前半は攻めているにも関わらずなかなか点が取れない苦しい状況が続きました。後半からはチーム全体の関わりも増え、点も入り初の2回戦突破を達成でき、とても嬉しく思います。個人としては、多くの課題がある中での出場緊張しましたが、無失点で終えることができたのでよかったです。引き続き応援よろしくお願ひします。

2回戦

2019年1月4日(金) みきぼうパークひょうご第1球技場

星槎国際高校湘南 4-0 筑陽学園高校 (神奈川) (福岡)

星槎得点者

加藤もも(50分)、遠藤彩棕(53分)、加藤もも(57分)、武 莉子(76分)



ボールを前線に
石塚みなみ



攻撃を組み立てる
高井咲都



ゴールを狙う
松尾美月

準決勝

2019年1月7日(月) 神戸ユニバー記念競技場

星槎国際高校湘南 4-0 東海大学付属福岡高校 (神奈川) (福岡)

星槎得点者

遠藤彩棕(3分)、加藤もも(30分)、安保舞美(35分)、加藤もも(60分)

選 手権では初のベスト4へ進出した。初めての景色として今大会スタジアムで行う初めての試合。このスタジアムは神戸ユニバー記念競技場。決勝戦もこのスタジアムで行う。もう一度この会場で試合ができるように気持ちを込めた。やはり、選手も緊張を覚えているようであった。ただ、前日のように対戦相手の特徴を掴み、中心となる選手を全員が理解していたので、試合開始のホイッスルがなったらいとも通りの様子で試合を始めた。

相手はロングボールで星槎の自陣に侵入してきた。しかし、星槎のディフェンス陣がラインコン



前線にボールを送る
國部 碧

フェンス陣がラインコン

トを放つとキーパーの頭上を越えて、キーパーの手をすり抜けて、先制点を取った。優位に勧められる状況になった星槎であったが、パスワークでリズムを作りたいところであったが、ロングボールを多用してしまい、リズムが掴みきれない。相手の跳ね返しを拾えば、攻撃をそこからできるがなかなか拾うことができず、カウンターを受ける。マークをしっかりとつぎ相手のFWに自由を与えずに守備をし危険を回避した。

先発メンバー



を奪った。相手も意地を得点奪いにきたが、全てを阻止し、攻撃力を誇る相手は無失点で抑え4-0

FW 遠藤彩棕

2 回戦が終わる、休息日を1日挟んでの準々決勝だった。対戦相手は関東予選で何度も対戦している花咲徳栄高校だった。



シュートする
安保舞美

しかし、星槎もここで負けるわけにはいかず、守備を集中して行い、ボールを取り戻しては奪いの繰り返しの攻防が続いた。集中力が少しでも切れた

今大会の関東予選では、3位決定戦で対戦し勝ってはいったが油断は全くできない。何度も対戦していることから対策をしっかりとってくることも予想された。また、星槎も始めての準々決勝の舞台で今までとは違う景色に戸惑う気がしていた。そして何よりも応援団が少なく、それが苦しい試合展開になることを更に予想させた。

しかし、星槎もここで負けるわけにはいかず、守備を集中して行い、ボールを取り戻しては奪いの繰り返しの攻防が続いた。集中力が少しでも切れた

方が出点してしまう、目の離せない試合展開であった。攻め上がるも、うまく攻撃をさせてくれない相手のDFは素晴らしい。お互いにそのままだと折り返す。0-0で前半を折り返す。



直接フリーキック
遠藤彩棕

準々決勝

2019年1月6日(日) 三木総合防災公園第2陸上競技場

星槎国際高校湘南 2-1 花咲徳栄高校 (神奈川) (埼玉)

星槎得点者 國部 碧(46分)、遠藤彩棕(51分)



さあ、攻撃開始だ

小野 葵

手ミスを誘って、ルーズボールを押し込み、念願の先制点を奪った。もう1点が欲しい星槎は攻撃の手を緩めず、相手自陣へ攻め込んだ。すると5分後にまたしても右サイド

を突破しクロスをおあげる。フリーになった選手にボールが渡り、キーパーの頭上を越す綺麗なループリシュートがゴールに吸い込まれ追加点を奪った。相手も諦めずに粘り強く星槎のゴールを奪いにきた。すると相手にコーナーキックのチャンスが訪れた。警戒していたセットプレーであったので声を掛け合いながら守っていたが、ファーサイドにきたボールに守備陣が反応しきれず、ヘディングで1点返されてしまった。その1点で相手にエンジンがかかり、星槎の守備の時間が長くなった。

して相手を自陣に下げた。なんとか相手の攻撃をしのいだ。そして、試合終了のホイッスルが鳴り2-1で勝利を納め、準決勝進出が決定した。

FW 松尾美月



星槎国際高校湘南

女子サッカー部の軌跡

創部5年目にして初の全国制覇を成し遂げた星槎国際高校湘南女子サッカー部。これまでの道は決して平坦ではなかった。2014年創部と同時に全国高等学校体育連盟に参入した。

監督は柄澤俊介。3年生はキャプテンの金野可奈、高橋優希、中尾美咲、金田穂乃花の4人。2年生は6人、1年生は5人の合計15人で「日本一」を目指してスタートした。

2014年度

全日本高等学校女子サッカー選手権大会関東予選6位。第23回 全日本高等学校女子サッカー選手権初出場。1回戦は愛媛県の松山東雲高校と対戦。6-0で2回戦へ。2回戦の相手は宮城県の常盤木学園高校。結果は1-2で敗れた。

2015年度

全日本高等学校女子サッカー選手権大会関東予選7位。第24回 全日本高等学校女子サッカー選手権2年連続出場。1回戦は長崎県の鎮西高校と対戦。0-0でPK戦にもつれ込むも、3-5で敗れた。

2016年度

全国高等学校総合体育大会(インターハイ)に初出場し、結果はベスト8。全日本高等学校女子サッカー選手権大会関東予選2位。第25回 全日本高等学校女子サッカー選手権3年連続出場。1回戦は兵庫県の日ノ本高校と対戦。3-3でPK戦にもつれ込むも、3-4で敗れた。

2017年度

全国高等学校総合体育大会(インターハイ)に2年連続で出場し、結果はベスト4。全日本高等学校女子サッカー選手権大会関東予選2位。第26回 全日本高等学校女子サッカー選手権4年連続出場。1回戦は大府府の大商学園と対戦。1-2で敗れた。

2018年度

全国高等学校総合体育大会(インターハイ)に3年連続で出場し、結果は初戦敗退。全日本高等学校女子サッカー選手権大会関東予選3位。第27回 全日本高等学校女子サッカー選手権5年連続出場。創部5年目にして全国制覇。

VOICE

DF4 渋谷巴菜(キャプテン)

冬の選手権で歴史をつくると思った事を実現することができてとても嬉しいです。最高の応援でした。本当に力になりました。テレビ越しにもたくさんのご声援ありがとうございました。

また、どんな時も陰ながら支えてくださった本当にたくさんの方々、ありがとうございました。引き続き、新チームの応援よろしくお願いします。

GK1 諸星花恋

たくさんの応援ありがとうございました。今大会では初戦突破、一戦突破という目標を掲げチーム全体で目の前の試合に挑んでいきました。チームとしては一戦一戦を大事にし、相手の肩書きなどにとらわれず挑み続けることができたと思います。

個人としては、2回戦のみ出場という悔しい結果となりましたが、チームとしては優勝という結果を最後の年に残せたので嬉しく思います。高校最後の年、とても充実できたので良かったです。

DF2 黒柳智世

たくさんの応援ありがとうございました。観客がいて今までよりも緊張していましたが試合ではいつも以上に気持ちを投入して戦うことができました！

3年生と戦う最後の試合だったので悔いなくやりきることができ、FK(フリーキック)での自分のゴールが決勝ゴールとなっていて嬉しいです。

DF3 阿久井泉

たくさんの応援ありがとうございました。このように素晴らしい舞台に立てたことは私にとってとても良い経験になりました。日本一になったのも本当にいろんな方々の応援と支えがあったからだと思います。私たちが3年生は高校生活最後の大会と

いつこともあり、悔いの残らないよう全力でプレーすることができました。この経験をこれから的人生に活かしていきたいです。

DF5 武莉子

全国のみなさん、たくさんの応援ありがとうございました。今大会では、たく



優勝カップを掲げる 渋谷巴菜キャプテン

さんの方々に支えてもらい自分たちが何の不自由もなく試合ができました。

今大会は、1試合1試合チームが成長しているなと感じました。自分としてはチームで立てた初戦突破という目標が達成できて、本当に良かったと思います。まだまだチームとしても、個人としても成長しなくてはいけない部分がたくさんあるので、またしっかりと気を締め直して次のステージに進んで行きたいと思っています。

MF6 針生理菜

この度はたくさんのご支援、ご声援ありがとうございました。創部初の優勝をすることができました。この優勝は現地やテレビの前で応援してくれた方や、私たちのためにサポートをしてくれた方々のおかげがあったからこそ取れたのだと思っています。

結果としては優勝できたことは良かったですが、試合の内容としては満足いくものではなかったです。このチームとしては最後の試合でしたが、個人としても、チームとし

と決めて挑みました。その結果、自分なりに全部を出したので、それが少しでも届いていればいいなと思います。また、3年間いろいろありました。この仲間と最後に笑って終われたことをとても嬉しく思います。そして私はここでサッカーができて、やっぱりこのチームが好きで、星槎に入ってよかったと改めて思いました。3年間本当に様々な支えやサポート、多くの応援のおかげでこんなにも素晴らしい環境があったからこそ、ここまで来ることができた。この大会を通してとても強く実感しました。

FW9 安保舞美

応援ありがとうございました。新チームに切り替わりますが、トレーニングなどで改善できるよう取り組みたいと思います。

MF7 高井咲都

今大会に限らず、いつも私たちの活動をたくさん応援していただきありがとうございます。日本一という一生忘れられない経験ができたのは宮澤会長をはじめとした皆さんの支えがあったからです。自分たちの力だけではここまで来られなかったし、このような結果を残すことができなかったと思います。

創部初の優勝ができて本当に嬉しいです。優勝することはできましたが満足いく内容ではなかったです。ですが、この大会を通してチームが1つになれたと思います。このチームで試合することができて本当に良かったです。

FW10 遠藤彩絵

たくさんの応援ありがとうございました。全国のみなさんの応援と、こんなにいい環境でサッカーができたことがとても嬉しいです。ご寄付してくれた方、テレビで応援してくれた方、遠くから会場に来てくれた方、いつも応援してくれている方、ここまで指導してくださったスタッフの方、全ての方に感謝を忘れずこれからも頑張りたいです。

MF8 望月今日

この度はたくさんの応援ありがとうございました。私は高校最後の試合という事で、いろんな人への感謝の気持ちや今まで積み重ねてきたことを全てプレーで表し伝えよう

頑張っていました。

FW11 加藤もも

今日もたくさんの応援ありがとうございました。決勝の舞台で、たくさんの方々の応援の中、日本一を掴み取ることができました。チームとして目の前の試合に全てをかける気持ちで一戦一戦、戦って来ました。素晴らしい仲間・コーチ・スタッフ・星槎の方々、本当にたくさんの応援、支援があったからだと思います。感謝の気持ちを忘れずにこれからも活動していきたいと思っています。

DF13 石塚みなみ

今大会を通して改めて実感したことは、私たちは本当にたくさんの方々を支えていただいていたことです。たくさんのサポートや応援、激励の言葉が力になったので感謝の気持ちでいっぱいです。私は、自分の立場でチームのためにできる仕事を全力でやり、チームの一員として今大会を戦えたこと、最後にみんなが頂点を掴み取り笑えたことを嬉しく思います。たくさんの方々と一緒に戦えたのは、自分たちの力だけではなく、周りのサポート、応援のおかげです。皆さんのおかげで最高の仲間と最高の景色を見ることができました。たくさんの方々が喜びを分かち合えたことが幸せです。本当にありがとうございました。

FW15 松尾美月

この度は、たくさんの応援ありがとうございました。私は、1年で、初めての選手権大会で夢の舞台でもあった決勝に行くことができて、とても嬉しく思います。私は、この全国大会で経験したことを、来年度に生かしてチーム

を引っ張っていきたくらいだと思います。

GK16 小野葵

大会期間中、たくさんの応援や支援をしていただき、ありがとうございます。みなさまの応援や支援が力となり、創部初となる全国大会優勝を果たすことができました。決勝戦では、相手にボールを持たれる時間が多く、攻め込まれ苦しい時間が続きましたが、チーム一丸となって無失点で守りきることができました。このメンバーと戦う最後の試合で優勝という最高の結果を残すことができ、良かったです。また、渡邊晃平コーチを日本一のキーパーコーチにする事ができ、とても嬉しいです。新人戦に向けて、新チームが始動します。全国大会優勝という結果を残せましたが、気を緩めずに、新人戦優勝を目指し、練習に取り組んでいきます。

DF28 國部碧

たくさんの応援本当にありがとうございました。スタンドからの声援をはじめ、私たちが全力でサッカーに取り組む為の環境を作っていただいたことに本当に感謝の気持ちで一杯です。私たちが今大会で日本一という結果を出すことができたのも、多くの方の支えがあったからこそ達成することができたと思っています。私自身、高校生活の集大成となる選手権には強い気持ちを持って臨みました。大きな舞台を経験したことによって選手として大きく成長することができたと思います。

自分たちの力だけではここまで来られなかったし、このような結果を残すことができなかったと思います。創部初の優勝ができて本当に嬉しいです。優勝することはできましたが満足いく内容ではなかったです。ですが、この大会を通してチームが1つになれたと思います。このチームで試合することができて本当に良かったです。

MF17 森美礼亜

この度はたくさんの応援ありがとうございました。創部初の優勝をすることができましたが満足いく内容ではなかったです。ですが、この大会を通してチームが1つになれたと思います。このチームで試合することができて本当に良かったです。

FW18 佐々木莉花

いつも私たち女子サッカー部の応援ありがとうございました。全国のみなさんの応援と、こんなにいい環境でサッカーができたことがとても嬉しいです。ご寄付してくれた方、テレビで応援してくれた方、遠くから会場に来てくれた方、いつも応援してくれている方、ここまで指導してくださったスタッフの方、全ての方に感謝を忘れずこれからも頑張りたいです。

した。最高の舞台で最高の結果を残せたこと、皆様と一丸となって戦って笑顔で終われたことは、私たちにとても一生忘れられない宝物になりました。